

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	所沢市子ども・子育て会議（令和5年度第1回）	
開 催 日 時	令和5年5月30日（火） 午前10時00分から午前11時20分まで	
開 催 場 所	市役所8階大会議室	
出 席 者 の 氏 名	（会議録別表1）のとおり	
欠 席 者 の 氏 名	（会議録別表1）のとおり	
説 明 者 の 職 ・ 氏 名		
議 題	（1）各事業の進捗状況報告 （2）その他	
会 議 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1：第2期所沢市子ども・子育て支援事業計画 令和4年度進捗状況報告 ・資料2：「こどもの意見の聴き取り」に関する資料 ・参考資料1：第2期所沢市子ども・子育て支援事業計画 令和4年度 見直し版 ・参考資料2：所沢市ヤングケアラー支援マニュアル 	
担 当 部 課 名	こども未来部 こども政策課 こども支援課 こども福祉課 青少年課 保育幼稚園課 健康づくり支援課	市来部長、青木次長 田中課長、中村副主幹、高橋主査、川名主査、木下主任、分部主任、奥主事 清水課長、美甘主幹 加賀谷課長 榎本課長 青木課長、東主幹 岩雲課長、松本主幹 （事務局）こども未来部こども政策課 電話 04-2998-9415

会 議 録

(会議録別表1)

所沢市子ども・子育て会議委員会名簿

	氏 名	出欠席状況	選出母体等
1	佐藤 愛子	出席	市民公募
2	下村 友香	欠席	市民公募
3	齊木 景子	出席	市民公募
4	津村 亜紀子	出席	市民公募
5	野本 理恵	欠席	所沢商工会議所
6	渡辺 良雄	出席	所沢地区労働組合協議会
7	渡辺 由美子	出席	所沢市私立幼稚園協会
8	川口 貴史	出席	埼玉県保育協議会
9	後藤 泰秀	出席	地域型保育事業運営団体
10	小松 君恵	出席	地域子育て支援拠点事業運営団体
11	秋山 展子	出席	学校法人 秋草学園 秋草学園短期大学
12	仲田 智宏	欠席	所沢市立小中学校校長会
13	小沢 貞泰	出席	所沢市放課後児童対策協議会
14	秀島 寿子	出席	所沢市民生委員・児童委員連合会
15	中村 芳江	出席	子ども・子育て支援関係者
16	田口 眞弓	出席	子ども・子育て支援関係者

発 言 者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p>～ 開 会 ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 欠席者等の報告 ■ 会議成立の報告 ■ 職員自己紹介 ■ 会長挨拶 ■ 傍聴者の確認（1名あり） ■ 資料の確認 <p>≪議事1≫</p> <p>～事務局より資料1に基づき説明～</p> <p>保育園の入園状況について伺いたい。</p> <p>現時点での保育園入園申請数、保育園に入れなかった不承諾通知数、待機児童数について確認したい。</p>
事務局	<p>（保育幼稚園課）</p> <p>令和5年4月時点のデータで回答する。申請児童数は2,069名、そのうち、不承諾となった児童数は819名である。待機児童は現在集計中であり、7月ごろに埼玉県ホームページで公表の予定である。</p>
委員	<p>不承諾通知数とは、「希望する保育園に入園できません」という通知を送った人数と理解している。通知をもらった保護者は、改めて入園できる園を探さなくてはならず、大変な思いをしているという声を聞いている。その数が800を超えていることは大変なことだと思う。資料の中には「大規模開発が行われている地域では、保育園新設も考えられる」という記述もあったが、施設整備の状況を伺いたい。</p>
事務局	<p>（こども政策課）</p> <p>大規模開発や区画整理事業については、開発等が把握できた時点で需要の伸びなどを見積もり、第2期事業計画に盛り込んでいるところである。また、今後新たな開発が把握できた時点で、随時計画の見直しを図っていきたいと考えている。なお、保育施設の整備については、まずは既存施設の活用を基本とし、市内の事業所に対しては既存施設</p>

<p>委員</p>	<p>での受入拡大等の要望を先日伝えたところである。</p> <p>待機児童の解消に向け、市としても様々な策を講じていると理解しているが、ここ数年で劇的な改善が見られない。この点について、どのような要因があると市として考えるのか伺いたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>(こども政策課)</p> <p>一番大きな要因は、コロナ禍で就労を控えていたような方が、5 類に引き下がることを契機に働き出したということがある。併せて、育児休業がしっかり 1 年間取れるようになった事業所が増えてきたことも要因の一つであると考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどの説明で 800 名余りが希望する保育園に入園できなかったという事実を聞き衝撃を受けた。コロナ禍で生活が困窮されている方がいて、働かなければならない状況が生じることは現実問題としてある。そうした中で、待機児童の問題は本当に解決できるのか、という疑問がある。</p> <p>また、受け皿となる一時預かりについても、なかなか預けられないという保護者も多い。かなり喫緊の課題であると考えている。</p> <p>市として、今回のように入園できなかった児童の保護者のその後の追跡はしているのか。現在どのようにフォローしているのか確認したい。</p>
<p>事務局</p>	<p>(保育幼稚園課)</p> <p>不承諾通知の対象となった児童数の中には、保護者が育児休業を延長することを前提に不承諾となることを希望して申請され、実際に不承諾となった方も一定数いる。また、希望園を 1 園しか書かず、その園に入園できない場合は幼稚園に入園させる、といった方もいる。とはいえ、昨年度より不承諾通知対象数が増加しているのは確かである。</p> <p>そうした方の追跡としては、保育園に翌月以降に入園できたのか、幼稚園に申し込まれたのかは市としても気にかけており、必要に応じて助言をしているところである。</p>

<p>委員</p>	<p>自分のここ 2 年くらいの印象を紹介したい。月に数回、乳幼児の集団健康診査を実施しており、保健師として自分も参加している。健康診査の際に保護者が記載する帳票には、保育園等の入園状況を記載する欄があり、問診の際にはその欄を確認しているが、多くが保育園等に入園していることが記載されていた。自分の印象として、待機児童は減っているという感覚であったが、819 という数字を伺い、違和感を覚えた。</p> <p>ただ、希望する園に入園できなかったという保護者の声を聞くことも事実であるので、全員に電話するのは業務量的に大変だとしても、手紙を出してその後の状況を聞くのもいいのではと思ったところである。</p>
<p>委員</p>	<p>議論を進める前に改めて確認したい。</p> <p>819 名という不承諾の数とは、保護者が希望した園に入園できませんという通知を送った数であり、待機児童数とイコールというわけではない。そこを押さえておかないと、議論が間違った方向に行ってしまう。先ほどの事務局の説明でもあったが、待機児童数は集計中という理解でよいか。</p>
<p>事務局</p>	<p>(保育幼稚園課)</p> <p>そのとおりである。819 名がそのまま待機児童になるわけではなく、一次の利用調整の結果、希望園に入所できなかった数である。その後、随時案内により、定員に空きがある園の情報を保護者に伝えながらマッチングを行い、この数を減らせるよう進めているところである。</p>
<p>委員</p>	<p>その上で伺いたい。不承諾通知の対象が増加しているのは、需要と供給のアンバランスが起こっていることが要因だと理解している。現在、市内の保育園で定員割れを起こしている園の数もしくは児童の数がわかればお示しいただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>(保育幼稚園課)</p> <p>定員割れの状況は確かに発生している園もあるが、児童数の不足よりも保育士不足が要因であることが考えられる。令和 5 年 4 月 1 日現</p>

<p>委員</p>	<p>在で、保育所では 25 施設、認定こども園では 7 施設の保育園で、保育士不足により園児の受入数に制限をしている。ただし、園によっては年度当初は少ない園児数で開始し、園児が園生活に慣れ、職員にも余裕が出てきた段階で受入数を増やすという考え方の施設もあるので、すべての園で保育士が不足しているとは一概には言えない所もある。</p> <p>819 名すべてが待機児童になるわけではないことは理解している。その後に随時で働きかけを行っていくとのことだが、その結果どれだけ深刻な待機児童になるのか、その後のフォローをもう少し丁寧にやっていくと、より詳細な分析ができるのではと感じている。電話で聞き取るのは大変であるが、可能であればオンラインフォームなどを活用してフォローを丁寧にしていきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>(保育幼稚園課)</p> <p>皆さまからいただいたご意見を踏まえ、できることをやっていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>保育園と比較して幼稚園の需要が少ないと感じている。幼稚園の預かり時間は保育園に比べて短いのが、預かり時間を保育園と同じくらいまでに増やせば需要が増えていくのではないかと。</p>
<p>事務局</p>	<p>(保育幼稚園課)</p> <p>市としても、各幼稚園には預かり時間を長くすることや、夏休み期間の受け入れの協力を依頼しているが、対応するかどうかは各園の判断となっている。市として引き続き働きかけてはいきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>保育需要の現状を明らかにした上で、この会議の場で議論してもらうのがよいと考え、先ほどの質問をしたところである。2 月に不承諾の通知をもらった保護者は働きながら、4 月までに次の園を探さなければならず、大変な思いをしている。それを考えれば、保育需要をしっかりと分析し、新たな施設を作っていく必要があるのではと感じている。ひとつの解決策として、新たな園を整備するのは大変なので、保育園分園制度を提案したこともある。そうした対応により、保護者</p>

<p>委員</p>	<p>が安心して入園申請できる環境になるのではと考えている。待機児童数は一昨年度が 3 人で、昨年度が 33 人と 10 倍に膨れ上がっている。この伸び率は大変な状況であるということを理解しなければならない。この保育需要を賄うのは新設保育園が必要だと考えており、保育需要を解決する道であると考えている。</p> <p>事務局から人材不足の話が出たが、現場を預かる事業者としてはそのとおりと感じる。児童を受け入れたくても保育人材が足りておらずにできないのが現状である。市として人材確保策を進めているとは思いますが、事業者と協力・連携して更に推進していけたらと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>地域型保育事業を運営している。事務局からも説明があったが、保育園の入園希望は第 8 希望まで記載できるが、第 1 希望しか記載しないという保護者の例も多々聞いている。保護者は保育園を評価して選んでいると常々感じている。事業者としては、園の保育の質を上げていくことで、保護者と園のマッチングがより図られ、課題の解決につながっていくのではと感じている。</p>
<p>事務局</p>	<p>(こども政策課)</p> <p>1 歳児、3 歳児の保育需要が特に高いデータは出ている。既存施設の定員の割振り変更や幼稚園の活用も含めて、入園希望者が利用できるようにしていきたい。今後も保育需要を分析し、こどもたちにとって何がよいかを第 1 に考えながら、取組を進めていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>≪議事 2 (その他(「こどもの意見聴取方法」に関する意見交換))≫ ～事務局より資料 2 に基づき説明～</p>
<p>委員</p>	<p>他市と比較しても、所沢市は児童館が多く充実している。児童館が拠点となり、その職員がこどもの意見を聞くのはどうか。児童館は小学生、中学生、高校生、乳幼児の保護者など多様な世代が来る場所である。最大限利用してよいのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>小学校、中学校と少年野球の指導をしている。そこで感じることは、児童に個人差がありなかなか全員から意見が出てこないということ</p>

<p>委員</p>	<p>である。例えば、学校のホームルームの時間を活用してアンケートを取り、そのアンケートに対して意見を言ってもらうのはどうか。先生の前に出て一人で意見を言うのは難しいと思うので、仲間内で話し合い、それを吸い上げることができればいいのではと考える。</p> <p>小学生と中学生・高校生を比べても反応は違うと思う。どの程度協力が得られるかはわからないが、小学生に対しては、例えばある学校に職員が出前授業として出向き、特定のテーマに対しての市の取組を伝えた上で、こども同士で話し合ってもらい、その中で出た意見を吸い上げるとするのはどうか。こどもの中には切実な問題を抱えている子もいればそうでない子もいる。そのこども同士が話し合っ、お互いの関係性の中で出てきた意見を吸い上げることが非常に大事なのではないか。</p> <p>中学生・高校生は人前で表現することがはばかれる年代でもあるので、匿名性のある SNS を活用するのもひとつの手法だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>中学2年生と小学5年生の子を持つ親としては、中学生は大人なようでまだまだ想像力が追いついていないと感じる。小沢委員のカテゴリを分ける案には賛成だが、カテゴリ分けは高校生と小・中学生でよいかと思う。</p> <p>また、ホームルームや道徳の時間などで意見交換してもらうことには賛成だが、その場で意見を出せないこどももいる。そうした子のためにも、こどもたちに授業の後に感想を書かせて、それを読み解くという作業があってもよいと思う。一問一答のアンケートをただ送るだけでは見えてこない、こどもたちの要望が見えてくると思うので、事務局としては大変な作業かとは思いますが、検討してほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>学校でアンケートを配布して回収するということはできないのか。</p>
<p>委員</p>	<p>テレビでこどものいじめ問題を取り上げているのを先日見たが、そこでは学校は何もしてくれないという声が上がっていた。親にも先生にも相談できないようなこどもたちがいる中で、アンケートを実施しようとしても心を開いて答えてくれるのか。また学年によっても心の育ち方が大きく異なるので、この場でどのような手法が良いか結論を</p>

	<p>出すのは難しい。</p> <p>我々が子どもだったときと大きく環境が異なる。SNS で傷つく子どもやコロナ禍で自分の殻に閉じこもった子どももいる。学校も先生も子どもとどう向き合うか悩んでいる。そんな状況で子どもたちの意見をどのように聞き取るのか。とても大事なことを話し合っていると感じている。</p> <p>すぐに結論が出るような問題ではないが、委員から出された意見を真剣に受け止めていただき、子どもたちの本当の意見を汲み取っていただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>子どもたちに何を聞きたいのか、聞き取る内容によっても聞き方が変わるかもしれません。</p>
<p>委員</p>	<p>子どもの意見聴取とは異なるが、保護者に対してのアンケートを紙媒体でなく、SNS などを用いて回答してもらえば回収率が上がると思うので、検討していただきたい。</p> <p>子どもへのアンケートはどれくらいの分量なのか、明確にする必要がある。また、市全域の子どもたちを対象とするのは難しいかと思うので、無作為に地域等を選び、直接聞き取りに行き、その場で言えなかった子に対しては SNS でアンケートを実施するなど、複数の方法を組み合わせるとい手法も検討していただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>(子ども政策課)</p> <p>子どもたちの本当の気持ちを汲み取れるよう、どのような手法がよいのか検討していきたい。子どもたちの意見聴取方法として SNS の活用についてはどう考えるか、意見を伺いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>小学 2 年生 4 年生の子を持つ親である。各家庭で考え方が異なることとは思いますが、我が家では SNS には慎重に触れさせていきたいとは思っている。ただ、自分自身は文章にすることで自分の気持ちが整理できたり、自分の本当の気持ちに気付いたりすることはある。SNS フォークイズという 12 歳以下の子ども向けの SNS アプリがあるので、そうした SNS を活用して、子どもたち同士で意見を匿名で言い合う場を設ければ、会議の場で発言するよりも自由な意見が出やすいのではと</p>

委員	<p>思う。学校から貸与されているタブレットがあるはずなので、それを活用できるとよいと思う。</p> <p>小学生、中学生は個人にタブレットが貸与されているので、そこからアクセスしてもらうのが、現実的で意見を集めやすいと感じている。</p> <p>ただ、幅広い子たちから意見をもらうのであれば、タブレットを使ったアンケートだけにせず、学校で意見を聞く、児童館を活用するなど、ひとつに限定せずに複数の方法があればよいと思う。</p>
委員	<p>SNS の活用については、児童の年齢が鍵になる。年齢によっては SNS で敷居が低くなって意見が集めやすくなることはあると思うので、そこはうまく活用していければよい。</p> <p>先ほどの委員の話にもあったが、意見聴取については柔軟に考えてよいと思う。ひとりの子が複数の意見を寄せたとしてもいいと思っている。その子がどこに関心を持っているかわからないし、最初の考えと異なる考えが出てくることもあるだろう。その中に、大人がハッと気づかされるような意見があるかもしれない。それを期待してはどうかと思っている。</p>
委員	<p>皆の意見に賛成であるが、その上で障害のある子についての合理的配慮についても一工夫が必要かと思うのでよろしくお願ひしたい。</p>
会長	<p>事務局では、皆さまからいただいたご意見を参考として、次期計画策定に向けての準備を進めていただきたい。</p> <p>以上で、本日の議事を全て終了する。</p> <p>■次回開催の案内 8月下旬の開催を予定</p> <p>～閉 会～</p>